

# 大阪医科大学学報

第66号 平成17年11月

(インターネット版)



路傍の小菊

## 目 次

入試広報活動報告 .....	2
規程関係 .....	3
訃報 .....	5
寄付金報告 .....	12
科学研究費補助金・学術奨励金等について お知らせ .....	15
中山国際医学医療交流センター .....	16
LDセンター .....	22
平成18年度入学試験要項(概要) .....	23
学内行事 .....	28
会議 .....	30
行事予定 市民公開講座 .....	32
附属病院関係 .....	33
メディカルラリー報告 .....	34
看護専門学校 .....	35
保健管理室からのお知らせ .....	36
俳句 .....	38
医療事故防止の標語 .....	39

# 入試広報活動報告

## 入試広報活動報告

### ～入試説明会を終えて～

教学部長 大槻 勝紀

先般10月10日に開催いたしました「入試説明会」についてご報告いたします。

当日は多くの参加者を迎え、13:00より臨床第1講堂にて、植木 實学長のご挨拶・私の「本学の紹介」、さらに千原教授から「平成18年度入試」についてのご説明、その後、河合塾大阪校「医進館」林講師による「入試対策ゼミ～英語～」と続きました。受験生が入試対策ゼミを受講している間に、保護者の方は「個別相談会場」に足を運ばれ、担当の先生方にご相談されたり、学生スタッフから本学について熱心に話を聞いておられました。

平成18年度より本学において「センター利用入試」を導入することから、ご相談の内容はやはり入試について最も多く寄せられました。

ゼミ終了後には、受験生の方も数多く「個別相談会場」に来られ面接・小論文についてなど具体的に先生方にご相談されていました。

前回のオープンキャンパスでも「大阪医科大学の学生さんは皆さん素晴らしい」と学生スタッフは好評でしたが、今回も同様のご意見をいただきました。受験生の方の中には「前回のオープンキャンパスも参加しました。学生スタッフの方とお話して、絶対、大阪医科大学に入りたいと思いました。この大学の雰囲気大好きです。」また保護者の方からは「学生さんは皆さん、患者さんに接するという対応を大学で身につけられているのですね。大阪医科大学の教育のレベルの高さがわかります。」と最高の賛辞とも言えるお言葉をいただきました。

学生スタッフ諸君は前回のオープンキャンパス以上に積極的に受験生や保護者に対応してくれ、大きな力となってくれました。



河合塾大阪校「医進館」林講師による対策ゼミ



在学生との交流会

休日にも関わらず毎回ご協力くださいます先生方に感謝申し上げますと共に、学生スタッフ諸君、そして裏方としてきめ細かく準備をしてくれた職員の皆さんに改めてお礼を申し上げます。

今後も受験生・保護者の方に本学についてご理解を深めていただけるオープンキャンパスや入試説明会を開催してまいります。

皆様のご協力を切に願う次第であります。

# 規程関係

## 規程制定

規程が次のとおり制定されました。

### 学校法人大阪医科大学理事委員会規程

#### (目的)

**第1条** 学校法人大阪医科大学（以下「法人」という。）の理事の選任及び再任に係る透明性を図り、理事会の機能向上を図ることを目的に理事委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (委員長及び委員会の構成)

**第2条** 委員は理事会で選出し、委員長は委員の互選により選任する。

2 委員は法人内から2名以内、学外から3名以内の総数5名以内とし、学外者が過半数となるよう配置する。

#### (任務)

**第3条** 委員会は理事長の諮問により次の任務を行い、委員長はその結果を理事会に報告しなければならない。

- (1) 理事の選任を行うにあたり、候補者の適性を評価する。
- (2) 理事の再任を行うにあたり、任期間の業務執行の適正を評価する。
- (3) 理事報酬及びその改訂の適正を評価する。
- (4) 理事会が定期的に理事会自身を評価するプロセスを確立、維持する。
- (5) 優れた功績を挙げた理事を顕彰する。

#### (委員の選任及び任期)

**第4条** 委員の任期は2年とし、再任はさまたげない。

#### (改廃)

**第5条** この規程の改廃は、委員会の議を経て理事会の承認をもって行う。

#### 附則

この規程は、平成17年9月13日から施行する。

# 規程関係

---

## 学校法人大阪医科大学役員等の報酬に関する規程

### (目的)

**第1条** 理事長、常務理事、理事（常勤・非常勤）、監事（常勤・非常勤）、評議員、相談役（常勤・非常勤）に対する役員等の報酬については、この規程の定めるところによる。

### (報酬の決定方法)

**第2条** 役員等の報酬は、理事長が理事委員会の評価を得て、その原案を理事会に上程し承認を得なければならない。

2 報酬の改訂についても前項と同様とする。

### (報酬の種類)

**第3条** 役員等の報酬は、定例報酬及び臨時報酬とする。

2 定例報酬は月額とする。

### (報酬の額)

**第4条** 役員等の報酬は、社会通念と貢献度に基づく相当な額とする。

2 臨時報酬については、法人の業績により支給しないこともある。

3 金額については、別表「役員等報酬算定基準」に従って算出する。

### (報酬の支払日)

**第5条** 役員等の報酬の支給日は、教職員の給与及び期末手当の支給日とする。

### (報酬の支払開始日)

**第6条** 報酬は、役員等に就任した日の属する月より支給を開始し、退任した日の属する月まで支給する。

### (退任慰労金)

**第7条** 役員等の退任慰労金については、『役員並びに評議員等の退任慰労金暫定支給基準』に従うものとする。

### 附 則

この規程は、平成17年9月13日から施行する。

**規程改正**

規程が次のとおり改正されました。

**大阪医科大学大学院学則（関係条文新旧対照表）**

新	旧
<p><b>第33条</b> 本大学院の管理運営のため医学研究科委員会をおく。<u>ただし、運営を円滑に行うため大学院委員会をおく。</u></p>	<p><b>第33条</b> 本大学院の管理運営のため医学研究科委員会<u>及び大学院委員会</u>をおく。</p>
<p><b>第37条</b> 大学院委員会は、医学研究科委員若干名をもって組織する。</p>	<p><b>第37条</b> 大学院委員会は<b>学長、事務局長</b>、医学研究科委員若干名をもって組織する。</p>
<p><b>第38条</b> 大学院委員会は大学院の<b>管理・運営</b>及び諸規定その他大学院に関する<b>事項を検討</b>する。</p>	<p><b>第38条</b> 大学院委員会は大学院の<b>管理</b>及び諸規定その他大学院に関する<b>重要事項を審議</b>する。</p>
<p><b>附 則</b> <u>この改正は、平成17年9月16日から施行する。</u></p>	



**訃報**

本学名誉教授の矢次正利先生（74歳）が、去る8月20日午後4時9分、多臓器不全にて逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

なお、故矢次正利先生には、医学教育功勞に対し、国より正五位に叙せられ、瑞宝中綬章が授けられました。

# 寄付金報告

## 新総合棟建設に係る寄付金の応募状況について

平成17年9月30日現在

区分	項目	寄 付 金	
		件数	総額（円）
一般企業		223	260,969,000
関連病院		33	29,760,000
学生保護者関係		21	6,699,100
仁泉会関係		326	52,700,000
白友会関係		35	2,358,000
本法人役員・評議員		46	28,870,000
教職員関係（教職員OB含む）		1,281	78,236,000
その他		10	2,751,840
	計	1,975	462,343,940

教職員と仁泉会会員または白友会会員と重なる方については、教職員にカウントしております。

### 寄付金申込者

平成17年7月1日から9月30日までの間の寄付金入金件数は110件、金額は17,274,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

**尚、分割納付されている方については、初回のみ掲載させていただきます。件数については、1回の入金につき1件として数えているため、ご芳名掲載数と一致しないことがありますのでご了承ください。**

（順不同・敬称略）

#### 企業関係 7件 金額 11,400,000円

サクラファインテックジャパン株式会社 株式会社エア・ガシズ阪神 合同東邦株式会社  
株式会社ケーエスケー 株式会社クラヤ三星堂 富士フィルムメディカル西日本株式会社  
株式会社コーリン

#### 仁泉会関係 53件 金額 4,770,000円

医療法人善明会 医療法人視生会丸山眼科医院 医療法人視恩会川添丸山眼科  
医療法人太田内科医院 医療法人社団加藤小児科 医療法人社団太陽会平野病院  
医療法人社団西村医院 医療法人梶川医院 医療法人回起会奥産婦人科 医療法人杏康会  
大阪医科大学 学14期36会 大阪医科大学仁泉会広島支部

宮川 擴	藤本 昭	松本 延男	杉浦 孝正	佐々木一平	古家 仁
島村 武	星屋 重夫	大野 直樹	藤本 昌良	松原 健	吉田 泰子
西代 博之	大杉 成一	杉原 洋一	大西 正則	大田 尚司	大友 昌志
松本 恭子	今井 三範	角南 暲司	福井 浩	山本 哲也	内田 実
中村 隆平	秋岡 壽	広石 隆	桑島 勉	安田 啓三	吉岡 達夫
中島 孝雄	大澤 悦二	三村 峻三	大崎 洲	菊地 昌直	宮崎眞一良

教職員関係（教職員OB含む） 49件 金額 1,004,000円  
 星賀 正明 吉間 正男 小島 正 林 伊吹 久川多恵子

その他 1件 金額 100,000円  
 武知 光重

### 看護専門学校新校舎建設に係る寄付金の応募状況について

平成17年 9月30日現在

所属学校 / 納付月別 寄付金合計表  
 (平成16年4月1日～同17年9月30日)

( 上段：件数 )  
 ( 下段：金額 )

	旧制看護婦学校	新制看護婦学校	准看護婦学校	産婆講習会	二年課程全日制	二年課程定時制	三年課程	助産婦学校	特別会員	保護者	非会員	顧問	企業等	寄付金額計	備考
寄付者数	13	16	20	0	154	55	133	3	11	64	50	2	6	527	
寄付金計	1,580,000	2,510,000	410,000	0	4,435,000	2,430,000	9,890,000	650,000	590,000	1,460,000	2,155,000	400,000	3,400,000	29,910,000	

複数の学校制度に所属していた場合は原則として白友会会員番号に登録している学校に計上

### 寄付金申込者

平成17年7月1日から9月30日までの間の寄付金入金件数は、10件、金額は330,000円です。  
 ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

( 順不同・敬称略 )

#### 看護学校新校舎建設のための寄付金

西川 正子 吉田 妙子 黒川由美子 抱 真由美 山本こづ江 岩本 暢泰  
 久川多恵子 佐野 浩一 村上 澄子 蘆田 晴重

### 高次脳機能発達総合研究寄付講座運営資金の応募状況について

### 寄付金申込者

平成17年7月1日から9月30日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は40,000,000円です。  
 ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
 尚、募集当初から平成17年9月30日までの間の寄付金入金件数は9件、金額は86,600,000円です。

( 順不同・敬称略 )

#### 高次脳機能発達総合研究寄付講座運営資金のための寄付金

株式会社銭高組

# 寄付金報告

---

## 「旧別館」保存事業・「歴史資料館」設置に係る寄付金の応募状況について

### 寄付金申込者

平成17年7月1日から9月30日までの間の寄付金入金件数は、15件、金額は2,580,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
尚、募集当初から平成17年9月30日までの間の寄付金入金件数は53件、金額は6,087,540円です。

(順不同・敬称略)

#### 歴史資料館設置のための寄付金

株式会社カイゲン 中央栄養食品株式会社 株式会社三和化学研究所  
株式会社コヤマカンパニー 株式会社アクト石原 明治安田生命保険相互会社  
株式会社コーリン WDB株式会社 岩本 暢泰 久川多恵子 吉川 満三 蘆田 晴重

### 新学生講義実習棟建設のための寄付金

#### 寄付金申込者

平成17年7月1日から9月30日までの間の寄付金入金件数は、6件、金額は111,200,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
尚、募集当初から平成17年9月30日までの間の寄付金入金件数は13件、金額は126,650,000円です。

(順不同・敬称略)

#### 新学生講義実習棟建設のための寄付金

大森 肇 山形 健治 大阪医科大学PA会

### ご芳名の掲載について

従来、ご寄付を頂いた方については、感謝の意を表するため、ご芳名を掲載させて頂いておりましたが、個人情報保護に関する法律の施行に伴い、掲載を希望されない方につきましては、掲載を割愛致しております。掲載をご希望されない方は大阪医科大学財務部財務課（直通：072 - 684 - 6235）までご一報ください。

科学研究費補助金について

平成17年度 科学研究費補助金 基盤研究（C）

研究課題名	研究代表者	採択区分	交付予定額		
	所属名・職名・氏名		17年度	18年度	19年度
色素性乾皮症の新規相補性群の原因遺伝子同定とその解析	皮膚科学 助教授・森脇 真一	新規採択 （転入）	180万円	170万円	
ヒト子宮内膜におけるERα転写因子	解剖学 教授・大槻 勝紀	新規採択	130万円	110万円	60万円

学術奨励金等について

平成17年度 井村臨床研究奨励賞 [財団法人 成人血管病研究振興財団]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
新しい疾患単位「劇症1型糖尿病」の確立	内科学 学内講師・今川 彰久	50万円

2005年度 花王健康科学研究会助成金 [花王健康科学研究会]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
ジアシルグルセロール投与による酸化ストレスマーカーおよび抗酸化酵素の変動	小児科学 助手・瀧谷 公隆	100万円

お知らせ

「ユニット」から「教室」への名称変更について

平成17年11月2日開催の教授会において、大講座の構成単位である「ユニット」について「教室」に名称変更することが審議・承認され、同日付をもって変更することとなりました。

## アムール医科アカデミー学生夏期研修を終えて

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

今年7月15日から8月2日までアムール医科アカデミー（ASMA）の学生4名（Elena Sorokinna, Maria Georgievskaya, Kiril Sizov, Elena Kovalenko）、およびレジデント1名（Anya Lysenko）が生化学Eugene Borodin教授の引率のもと本学および同附属病院にて研修を行いましたので報告します。

この研修は、両大学の国際交流を目的として平成14年から始められたもので、それぞれの大学が夏休みを利用して、隔年ごとに学生を受け入れることになっています。平成14年および平成16年には、わが校の学生7名が3週間にわたりASMAで研修を行っており、また平成15年にはASMAの学生4名がわが校で研修を行っています。（詳細は本学学報をご覧ください）

本学での研修期間はおおよそ3週間で、センター運営委員の先生方のお世話により、第1内科、小児科、精神神経科、一般消化器外科、脳神経外科、口腔外科、病院看護部および第1解剖学、微生物学、衛生学公衆衛生学などの部門において多彩なプログラムが展開されました。



研修終了証書



学長室にて



高槻市表敬訪問

研修初日は本学諸施設の案内、附属病院の見学とオリエンテーションから始まりましたが、総合研究棟や、附属図書館、学生講義実習棟などの設備が素晴らしいこと、また新設された新病棟や附属病院の医療設備の優れていること、また外来患者数の多さには驚嘆していました。日頃私達スタッフには気がつかなくなっている本学の環境に敏感に反応する様を見て、かえってこちらが驚くほどで、また考えさせられもしました。



看護専門学校 学生との交流

各科での研修は毎朝9時半にはスタートし、午前、午後ともに目一杯のスケジュールが組まれ、学生達は熱心に課題を消化していきました。また三島救命救急センターや総合保健医療センター、新阿武山病院、製薬会社の医薬研究所、国立国会図書館西館など、ロシアには無い施設の見学ではただ驚嘆するばかりでしたが、研修の終わり近くになった頃にはさすがに少し疲れが出たようでした。

本学でのスケジュールの合間に、今回も高槻市長への表敬訪問が組まれましたが、奥本市長や山本助役、清水健康部長など市幹部との懇談はお互いの市民生活をはじめ多方面にわたり、所定の時間を軽くオーバーしたほどでした。会の終わりに奥本市長から記念品とともにプラゴベスチンスク市長への親書が託されましたが、今後本学を中心として、市民レベルの交流へと発展することが期待されます。

研修期間中、ハワイ大学医学部学生や各国留学生、本学学生との国際シンポジウムが開催され、各国の医学教育制度や文化の違いを学ぶ良い機会になりました。各種懇談会も度々持たれ、また島田前学長のお世話による老健施設の見学や京都、奈良、大阪、神戸などの文化施設訪問などの行事には学生諸君も数多く参加してくれましたが、彼等のすぐに打ち解ける様子には時代の流れを強く感じるとともに、本学学生の英語でのコミュニケーション能力も捨てたものではないと誇らしくも思いました。

アムール医科アカデミーの学生が帰国する日、修了証書を一人一人に手渡し、空港に見送ったときは、無事に終えたという喜びとともに、一味違った充実感を味わうことができました。

今回の研修について終始ご指導ご助言をいただいたセンター運営委員の諸先生をはじめ、期間中お世

話いただいた各部門の教職員各位、さらに本研修をご許いただいた植木学長、竹中病院長、大学法人に対しまして厚く御礼申し上げます。



老健施設「こもれび」見学

### Cooperation of OMC and ASMA in 2004-2005 and the second visit of Russian students to OMC

Dear Professors and students of Osaka Medical College!

It is a great pleasure for me to address you second time with the article in the Journal of OMC. I have written my first article in 2003 at the end of my stay in Takatsuki-city with the delegation of the students of ASMA. In the first article I described the history of cooperation of ASMA and OMC and my impressions from the summer workshop for our students in OMC. Since this time, the cooperation of ASMA and OMC has been continued.

In July 2004 the second delegation of the students of OMC visited Blagoveshchensk. This time delegation was large and included 5 lady students - Miss Madoka Inoue, Miss Sakurako Takano, Miss Hitomi Takayama, Miss Yukiko Tsukao, Miss Yukiko Fuji, doctor Hiroyasu Shimizu and former president of OMC Professor Masahisa Shimada.

It is rather long way from Takatsuki-city to Blagoveshchensk and it occupies two days. On July 23 students and president departed from Osaka to Niigata by domestic flight. From Niigata they departed by the international flight and arrived in the Russian Far Eastern city Khabarovsk already in the evening because two hours time difference between Japan and Khabarovsk in summer time. I have met the delegation of OMC in Khabarovsk airport. We spent a night in the hotel, situated exactly at the central square of Khabarovsk. President Shimada visited Russia nearly 30 years before. He took part in the international congress of anatomists in the former Leningrad. It was enough for president simply to see the view of the central square of Khabarovsk to mark great changes in now a days Russia. In the morning of July 24 we have seen the sights of Khabarovsk and after the lunch departed from this city to Blagoveshchensk by train. The train trip was very interesting for Japanese people. It was very unusual for them to see unpopulated natural land through the window of the compartment. Once upon a time the students have seen Russian people in the nature and tried to understand what these people were doing here. We were going by the Vladivostok-Blagoveshchensk train but the students prefer to think they were travel by the Trans-Siberian Vladivostok-Moscow "Russia" train. In the morning of July 25 we have arrived in Blagoveshchensk. So, the whole trip from Takatsuki-city to Blagoveshchensk occupied 2 days. It was very unusual for Japanese people.

Students stayed in Blagoveshchensk from July 25 up to August 8. Intensive study and cultural programs were prepared for them. The study program included the practical work with the patients. The students obtained practical experience of examination of patients, took part in surgical operations and labors, they have seen the baby delivering. Students studied hardly and expressed good knowledge of medicine and English language. Russian professors Iraida Menshokova (internal medicine), Anatoly Stukalov (surgery), and Tamara Bystritskaya (obstetrics) estimated students of OMC highly.

Besides study program students enjoyed cultural program - welcome parties, visit to the mayor



Professor Eugene Borodin

of Blagoveshchensk-city, visits to the museums and children theater, discussion with the ASMA students, ship trip over Amur river, visit to the "Vasilyok" sanatorium situated in the very beautiful place on the bank of Zeya river. One evening each student was invited to Russian family. Students have seen the way of living of Russian people and studied how to prepare the famous Russian food "pirozhki". Students of OMC obtained a lot of friends among the students of ASMA. Delegation of the students of OMC returned Japan on August 10.

Separate schedule was prepared for Professor Shimada who couldn't stay in Blagoveshchensk for two weeks and stayed in our city from July 25 up to July 28. On July 26 president Shimada and rector Dorovskikh had a meeting in the municipality of Blagoveshchensk with a mayor of the city Mr. Alexander Kolyadin. Rector of ASMA professor Dorovskikh met with President Shimada and students in his office in ASMA and gave all the members of the delegation Russian souvenirs. Professor Dorovskikh and Professor Shimada have made a trip to the nature. It was very adventurous car and boat trip. Within this trip professor Shimada had a fine possibility to see how Russian people like to spend their free time. Professor Shimada had got a lot of very interesting experience from this trip. He returned home on July 30.

In early spring of 2005 we made an attempt to extend the cooperation of ASMA and OMC on the field of research. Japan Society for the Promotion of Science and Russian Foundation for Basic Research have concluded a treaty on conducting a competition for getting a grant on joint research. Director of the Nakayama International Center for Medical Cooperation of OMC Professor Koichi Kono has informed me about this project and within two months I worked hardly with doctor Hiroyasu Shimisu to prepare application for getting a grant. At last we prepared such application for conducting joint research "Endogenous and anthropogenic pollution with heavy metals of the Amur Region and its consequences for the health of population". According to the application the hygienists and chemists from OMC, chemists, biochemists, neurologists and specialists in occupational medicine from ASMA will take part in the research. If we will be lucky and will get a grant we will carry out joint research within two years.

On summer time students of ASMA have vacations. The talented, hard working students, able to speak English freely have a chance to go Japan to take part in summer workshop prepared for our students in OMC. This summer delegation of ASMA students visited Takatsuki-city second time. Our delegation included 5 students. The oldest student Anya Lysenko this summer graduated ASMA (in Russia universities study year is going on since September up to July). She will continue her education in residency in hematology. For Anya it was the second visit to OMC. Elena Sorokina and Kirill Sizov finished their fifth year of study, Mariya Georgievskaya finished the fourth year and the youngest student Elena Kovalenko finished the second year.

We have arrived in Osaka on July 15. In Itami airport we were welcomed by Professor Koichi Kono, Mr. Kazuyoshi Ogawa, Miss Masako Marimoto, Miss Mariko Kikuta and students of OMC. We stayed in Takatsuki Kyoto Hotel.

Next day we have an orientation meeting with Professor Koichi Kono and after the lunch took part in the very interesting 5-th International Exchange Students Symposium "Lets learn the education of the medicine, the school life and the culture of each country". Professor Kono had opened the symposium and Professor Hiroshi Yoneda was in charge of moderator. Our students have made two presentations: "ASMA. Study program and students' life" (Anya Lysenko and Elena Kovalenko) and "Students' life in Blagoveshchensk" (Elena Sorokina and Mariya Georgievskaya). It

was very interesting for our students to know about the study process and life of the students in the Hawaii University (Neal Kellenberger), China medical Universities (Wei Sun), Iran (Elham Fakhrejehani), and in Osaka Medical School (Yukiko Fuji). In the evening there was nice party. For our students it was welcoming party and for the students of Hawaii University it was farewell one. The discussions with American students were very interesting and plausible for students. It was fine chance for them to communicate with the colleagues from different countries - Japan, USA, China and Iran. They found a lot of common things between them. I hope such meetings will help younger generation better understand contemporaries in other countries and to establish more intelligent situation in the world in the future.

July 17 was Sunday and July 18 - the Japan National holyday. So, on these days we have only cultural program. On July 17 we have an excursion to the Osaka Castle Museum. May be it is the most famous historical building in Osaka. We have seen this building before in the English movie "Shogun" by James Clavell and it was interesting for us to see the building in reality.

On July 18 there was an USA day. We spent whole day in Osaka in the Universal Studio Japan. It was really the visit to the USA. We enjoyed by the enthralling sights such as shows "Water world", "Jurassic Park", "Spider Man" and so on. In Russia we have seen these movies on TV but here in the Universal Studio we felt that we are the active participants of these shows.

On July 19 President of the School of Nursing of OMC Professor Koichi Sano showed us the Nursing School. We had short meeting with the students of the school and familiarization sightseeing. Speaking with professor Sano I have found that between us there are some common features. We are the same age and were born in April 1954. The only difference is that I was born on April 7 and professor Sano on April 14. It seems to me that these similarities had gave rise the sense of sympathy between us. After the lunch there was a meeting of our delegation with the new President of OMC Professor Minoru Ueki. I handed the greeting message of the rector of ASMA, Professor Vladimir Dorovskikh to Professor Ueki. President of OMC expressed satisfaction with the development of cooperation between ASMA and OMC in the previous period and expressed readiness to continue our cooperation and even intensify it further. I think it was great honor for us to be introduced to the honorary director of the OMC Mr. Tadahiro Tanaka. After the meeting with the president we looked around OMC and OMC library. Our old friend, the head of the library Mr. Shuji Mogi had shown us a lot of medical books and periodical journals and gave the students library cards in order they we were able to go to the library at any time they want.

In the first half of July 21 there was Inspection of Public Institutions in Takatsuki. Students concluded that Takatsuki-city is very beautiful and comfortable for life. In the afternoon, our delegation paid courtesy visit the Takatsuki mayor. Mayor Mr. Tsutomu Okumoto made a welcome speech at the formal meeting. I have introduced the students and all of them said some words about themselves, ASMA and Blagoveshchensk. I handed over to Mr. Okumoto greeting messages of the new Blagoveshchensk-city mayor Mr. Antoly Mygulya and the rector of ASMA, Professor Vladimir Dorovskikh. Mayor Tsutomu Okumoto had already corresponded with the former mayor of Blagoveshchensk. The new mayor is also interested in developing cooperation between Takatsuki-city and Blagoveshchensk. We are proud that this cooperation began with the visit of ASMA students to Mr. Tsutomu Okumoto in 2003.

On July 21 Professor Toshiaki Hanafusa discussed with the students the problem of Diabetes Mellitus. Students gained a lot of new information about diabetes from Professor Hanafusa. The

discussion was very interesting and plausible for them. After the discussion students examined the patients with diabetes. In the evening there was a party in the OMC. The majority of professors of the college took part in the party. It was a fine chance to be acquainted with professors because cooperation of ASMA and OMC is dependent on Professors opinion. It was especially interesting for me to make the acquaintance with my colleges - Professor Eisuke Furuya and Professor Hideyuki Hayashi. I hope my discussion on possible joint research with professor Furuya was interesting for him.

Professor Toshihiko Kuroiwa carried out classes for our students on the neurosurgery on July 22. The physicians from neurosurgery department demonstrated interesting cases and told the students the methods of the treatment of the patients with the tumors of brain. Professor Kuroiwa invited us in Japanese restaurant for dinner party and after the party to karaoke bar. The party was very nice and Japanese sea foods and drinks were very delicious.

On July 23 Dr. Hiroyasu Shimizu was our guide at the visit to Kansai-kan of the National Diet Library in Nara. This is a modern and rich library. Within some minutes I have found in electronic catalog and got in my disposal "Encyclopedia of Food Sciences and Nutrition", which is very interesting to me. On the afternoon there was sightseeing for Nara.

We were invited to visit the home of Professor Kono on July 24. Speaking with professor, his wife and daughter I began to understand the way of living of Japanese family. It is comfortable but at the same time very intensive life.

On July 25 I have departed from Takatsuki-city and returned Russia. Students have continued theirs' study and cultural program. At the return home they told me that everything was fine and they are very happy with the visit to Takatsuki-city. They enjoyed Japan, Takatsuki-city, and beauty of Japan nature and culture of Japanese people.

From the bottom of my heart I express sincere acknowledgement to the President of OMC Professor Minoru Ueki and director of Nakayama International Center for Medical Cooperation of OMC, Professor Koichi Kono for the invitation of the delegation of the students of ASMA to visit Takatsuki-city and OMC this summer and for the excellent organization of summer classes. Both study and cultural programs were interesting, intensive enough and very plausible for our students. We are sincerely appreciated to Mr. Kazuyoshi Ogawa, Miss Masako Marimoto, Miss Mariko Kikuta, Dr. Hiroyasu Shimizu, Dr. Yasunori Ariyoshi, Dr. Kan Usuda, Dr. Tomotaro Dote and many students who took care of us. We are sincerely grateful to professors of OMC - Professor Toshiaki Hanafusa, Professor Toshihiko Kuroiwa, Professor Masashi Shimahara, Professor Yasunori Outski, Professor Hiroshi Tamai and Professor Hiroshi Yoneda for their efforts to teach our students. If I forgot to thank some one I ask these persons to excuse me, please. I sincerely hope that starting with echange of students step by step we will strengthen our cooperation to the benefit of both ASMA and OMC.

Head of the biochemistry department of ASMA  
Professor Eugene Borodin

## LDセンター講演会

### 「アスペルガー症候群の理解と教育的支援」

LDセンター長 玉井 浩



LDセンターが開設されて5年目を迎え順調に検査数、指導数も増えてきています。また、当初より行っている講演会活動にも保護者のほかに学校の先生、医師、保育士の先生らが多数参加して、発達障害の理解と指導に役立っていると考えています。

さる10月15日(土)には竹田契一客員教授による講演会「アスペルガー症候群の理解と教育的支援」が166名の聴衆を集めて行われ、3時間に及ぶ講演も盛況のうち無事終了しました。アスペルガー症候群は幼少児期には言語発達遅滞、コミュニケーション障害、不登校などで病院を受診することが多く、小児科外来およびLDセンタークリニックにも多くの子ども達が受診しています。今回は、学校教育現場での教師の理解と対応の仕方を中心に解説し、さらに米国のHELP groupというアスペルガー症候群の子どもが数百人も通っている学校の紹介、関西でもうまく運営されている公立中学校の話などが紹介されました。



小児科と連携した診療、検査、指導・学習支援、そして社会活動としての講演会などが現在のLDセンターの活動として定着してきていますが、さらに社会貢献すべく努力して行きたいと考えています。

# 平成18年度入学試験要項（概要）

## 平成18年度入学試験要項（概要）

平成18年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校、それぞれの入学試験要項が決定いたしましたのでその概要をお知らせします。

### ）医学部・医学科

#### 1) 募集人数

一般入学試験.....90名

センター試験利用入学試験.....10名

一般入学試験とセンター試験利用入学試験は併願可能です。

#### 2) 一般入学試験

**日程** 入学願書受付期間：平成18年1月4日(水)～1月31日(火)午後5時必着（郵送に限る）

学科試験日	平成18年2月10日(金)
学科試験会場	関西大学 千里山キャンパス第3学舎(社会学部)
学科試験合格発表	平成18年2月18日(土)午後4時
小論文・面接試験(学科試験合格者のみ)	平成18年2月22日(水)
小論文・面接試験会場	大阪医科大学 本部キャンパス
合格発表	平成18年2月23日(木)午後1時
入学手続締切日	平成18年3月3日(金)午後3時
入学辞退締切日	平成18年3月24日(金)午後5時

#### 試験科目・試験時間等

試験時間	教科・科目(出題範囲)	配点
1時限目 9:30～11:10(100分)	数学(数、数、数、数A、数B、数C) 備考:数Bの科目中、統計とコンピュータ・数値計算とコンピュータを除く。 数Cの科目中、統計処理を除く。	100点
休憩(80分)		
2時限目 12:30～14:30(120分)	理科(「物理、物理」,「化学、化学」,「生物、生物」の3区分中2区分選択) 備考:物理、物理の科目中、原子、電子と物質の性質、原子と原子核を除く。	200点
休憩(60分)		
3時限目 15:30～16:40(70分)	外国語(英語、リーディング、ライティング)	100点
配点合計		400点

#### 3) 入学検定料 50,000円

#### 4) センター試験利用入学試験

**日程** 入学願書受付期間：平成18年1月10日(火)～2月7日(火)午後5時必着（郵送に限る）

学科試験日(大学入試センター試験日)	平成18年1月21日(土)、22日(日)
学科試験合格発表	平成18年2月23日(木)午後1時
小論文・面接試験(学科試験合格者のみ)	平成18年3月14日(火)
小論文・面接試験会場	大阪医科大学 本部キャンパス
合格発表	平成18年3月15日(水)午後4時
入学手続締切日	平成18年3月22日(水)午後3時
入学辞退締切日	平成18年3月24日(金)午後5時

## 平成18年度入学試験要項（概要）

試験科目		
教科	教科・科目（出題範囲）	配点
国語	「国語」	100点
数学	「数学 ・数学A」、「数学 ・数学B」2科目必須	200点 (各100点)
地理歴史、 公民	地理歴史「世界史B」、「日本史B」、「地理B」および 公民「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の6科目の中から1科目選択	50点
理科	「物理」、「化学」、「生物」の3科目の中から2科目選択	200点 (各100点)
外国語	「英語」	200点
配点合計		750点

「地理歴史、公民」については、2科目を受験している場合には高得点の科目の成績を用います。

「理科」については、3科目を受験している場合には高得点の科目の成績を用います。

「国語」については、大学入試センター試験が200点満点のため100点に換算します。

「地理歴史、公民」については、大学入試センター試験が100点のため50点に換算します。

「英語」については、大学入試センター試験の筆記試験が200点満点、リスニング試験が50点満点のため、筆記試験を180点、リスニング試験を20点に換算します。

「理科」については、旧教育課程履修者のみに対し、「物理 A」、「化学 A」および「生物 A」の選択を認めます。

5) 入学検定料 32,000円

6) 納入金

項目	初年度納入金			2年次以降 納入金（年額）
	第1期（入学手続時）	第2期（9月15日）	第3期（1月15日）	
入学金	1,000,000円			
授業料	610,000円	610,000円	610,000円	1,830,000円
実習料	120,000円	120,000円	100,000円	340,000円
施設拡充費	410,000円	410,000円	410,000円	1,230,000円
教育充実費	3,000,000円	1,000,000円	1,000,000円	900,000円
納期別計	5,140,000円	2,140,000円	2,120,000円	
年度別納入金	9,400,000円			4,300,000円
6年間総計	30,900,000円			

（注）・入学手続時に、PA会（保護者会）会費（年額100,000円）のうち第1期分50,000円及び学友会入会金5,000円、学友会会費（年会費）10,000円をそれぞれ委託徴収する。

・入学後、「募集趣意書」により任意の寄付金をお願いします。

7) 本学入学者について、受験成績が優秀であった数名（特待生）に対し、入学金相当額、年間実習料相当額および施設拡充費相当額を、加算した額を当該年度末に支給します。（給付奨学金制度）この制度は一般入学試験で入学した者だけに適用されます。

8) 入学手続完了者で3月24日（金）午後5時までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

9) 入学試験要項の請求方法について

（1）大学ホームページから直接請求できます。（約2日でお届け致します）

## 平成18年度入学試験要項（概要）

### （２）テレメールで請求する場合（約２日でお届け致します）

1. 自動音声応答電話ならIP電話 050 - 2015 - 5050  
東京 03 - 3222 - 0102 名古屋 052 - 222 - 0203  
大阪 06 - 6222 - 0102 福岡 092 - 433 - 0102  
携帯電話・パソコンからも請求できます。 <http://telemail.jp>
2. 資料番号（６桁）をダイヤルして下さい。 資料番号 159915
- 3.あとは音声ガイダンスに従い登録して下さい。

### （３）郵便局から請求する場合

郵便局（普通局、特定局）に設置されている「国公私立大学・短期大学及び通信教育課程・大学校 募集要項（願書）請求申込書」（入学願書ゆうパックカタログ）に必要事項を記入の上、1,200円（願書代と送料込）を添え、最寄りの郵便局の窓口で申し込んで下さい。受付から1週間程度でお届け致します。

### （４）大学に直接請求する場合

1,200円を現金書留または郵便定額小為替で、送付先の郵便番号、住所、氏名を明記した縦6cm×横10cm位の紙片を同封し、封筒の表に「要項請求」と朱書して下記宛に請求して下さい。

〒569-8686

大阪府高槻市大学町2 - 7

大阪医科大学 教学部 広報・入試課 TEL . 072 - 684 - 7117,7304(直)

### （１）（２）（３）の請求方法についての問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター

TEL . **IP電話** 050 - 2015 - 5050（月～金 9：30～18：00）

## ）大学院・医学研究科

### 1) 入学願書受付期間

平成17年12月15日（木）～平成18年1月13日（金）（必着）

### 2) 入学試験日時、試験科目及び試験場

月 日（曜）	時 間	試 験 科 目	試 験 場
2月2日（木）	9：30～11：30	外 国 語	本 学
	12：30～13：30	健 康 診 断	
	13：30～16：00	面 接	
2月3日（金）	14：00～16：30	専攻授業科目	

### 3) 合格発表

平成17年3月2日（木）午前9時本学内に掲示すると共に本人宛にも通知します。

### 4) 入学検定料 30,000円

## 平成18年度入学試験要項（概要）

### 5) 納付金

項目	初年度納付金			2年次以降 納付金（年額）
	第1期（入学手続時）	第2期	第3期	
入学金	230,000円			
授業料	70,000円	70,000円	60,000円	200,000円
実習料	40,000円	30,000円	30,000円	100,000円
合計	340,000円	100,000円	90,000円	300,000円

### ）看護専門学校

#### 推薦入学試験（指定高等学校制）

学 科	看護学科（3年課程・全日制）
募集人員	約 30 名
受験資格	平成18年3月高等学校卒業見込みの者
推薦基準	<p>推薦者は1学校2名以内</p> <p>1) 人間を心身両面にわたって理解し、病んでいる人に対して看護者となり得る人。</p> <p>2) 成績が全体の評定平均値3.7以上であること。</p> <p>3) 専願で合格後は必ず入学すること。</p> <p>4) 学校長の推薦があること。</p> <p>5) 原則として卒業後本学附属病院に就職すること。</p>
試験日時	平成17年11月17日（木）9：00～16：00
試験科目	筆記試験 国語総合（漢文を除く）・小論文試験 面接試験 適性試験
試験場	大阪医科大学 高槻市八丁西町7番6号
合格発表	平成17年11月25日（金） 合否については学校に通知するとともに本人宛に合否通知書を送付する。
受験料	25,000円
受付期間	平成17年11月1日（火）～11月7日（月）必着 願書持参は平日9：00～16：30（土曜、日曜、祝日を除く）
学 費	入学金 300,000円 施設設備費 40,000円 授業料 175,000円（前期） 実験実習料 25,000円（前期）

## 平成18年度入学試験要項（概要）

### 一般入学試験

学 科	看護学科（3年課程・全日制）	
募集人員	約 50 名	
受験資格	1）高等学校を卒業した者、および平成18年3月卒業見込みの者 2）学校教育法第56条の第1項に該当する者	
	一次試験	二次試験
試験日時	平成18年1月29日(日) 9:00~15:30	平成18年1月30日(月) 8:00~
試験科目	筆記試験 国語総合（漢文を除く） 数学（二次関数・図形と数量、数と式、方程式と不等式） 生物・化学のうちいずれか1科目選択 英語  適性検査	面接試験（集団面接・個人面接）
試験場	大阪医科大学 附属看護専門学校 高槻市八丁西町7番6号	同左
合格発表	平成18年1月30日(月) 8:00	平成18年2月4日(土) 12:00
	合否については本人宛に郵送で通知する いずれも大阪医科大学附属看護専門学校の掲示板上に発表する	
受験料	25,000円	
受付期間	平成18年1月4日(水)～1月20日(金)消印有効 願書持参は平日9:00～16:30(土曜、日曜、祝日を除く)	
学 費	入 学 金 300,000円 施設設備費 40,000円 授 業 料 175,000円(前期) 実験実習料 25,000円(前期)	既納入金の返還 入学手続完了者で3月31日(金)までに書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

### 人権教育特別講義



人権教育推進委員会主催の平成17年度の人権教育特別講義が臨床第1講堂にて次のとおり実施されました。

平成17年10月17日（月）17：00～18：00

『セクシャル・ハラスメント』

講師：辻川圭乃先生  
辻川法律事務所 弁護士

### 大学祭 - 2005 -



今年は「FRESH」をテーマに10月8日（土）さわらぎキャンパスにおいて、大雨をものともしない熱気溢れる大学祭が開催されました。

同キャンパスに設けられた野外特設ステージでは、軽音ライブPart1が行われたのを皮切りに、ヒーローショー（マジレンジャー）、空手演舞、吉本芸人お笑いライブ、ビンゴ大会など多彩なイベントが催されました。

また、キャンパス内でも各クラブがイベントや出展を行い、日頃は閑静なキャンパスもこの日ばかりは賑わいを見せていました。

### 看護専門学校戴帽式



平成17年10月7日（金）午後1時から、看護専門学校講堂において、新講堂で初めての、例年の倍の83名（男子1名を含む）の1年生を対象とした戴帽式が、来賓ならびに保護者の参加のもと厳粛に挙行されました。

23回生全員で検討した誓いの言葉では「一、確かな判断力と指導力を養い、患者様中心の看護を提供し、常に思いやりの心をもって笑顔で任務を果たすことを誓います。一、探究心を忘れず、何事にも前向きに行動し、初心を忘れない看護師を目指すことを誓います。一、生き方として看護職を選んだことに誇りをもち、生涯、看護の心を忘れず向上し続けることを誓います。」と斉唱し、決意を新たにしました。

## 保育園運動会



平成17年10月8日（土）保育園の運動会がおこなわれました。

当日はあいにく、雨が降ったり止んだりで、結局室内でおこなわれましたが、こどもたちには雨なんか関係ありません。今日は楽しい運動会です。ハットをかぶりガンバリマンに、ガンバリマンの歌「ちいさくたってちからもち・・・えいえいおー」の歌が聞こえてきそうです（写真のように）。

手遊び、絵本読み、運動会ごっこ、記念撮影などでこどもたちにとっては楽しい運動会となりました。

## 名誉・功労教授懇談会



平成17年10月21日（金）午前11時半からホテル日航茨木大阪において、名誉教授16名、功労教授5名の出席により、名誉・功労教授懇談会が開催されました。

中田名誉教授の乾杯のあと、小野村名誉教授の司会により和やかに会が進められました。

## 平成17年度解剖慰霊祭



平成17年10月15日（土）午後2時から、高槻現代劇場大ホールにおいて平成17年度解剖慰霊祭が執り行われました。

当日は雨天にもかかわらず、多数のご遺族、さつき会会員（生前献体登録者）にご参列頂きました。

来賓各位をお迎えし、本学役員、教職員、学生、看護専門学校生の参列のもと、諸霊位に対し深い感謝とご冥福を祈り、厳かに慰霊祭は終了致しました。

## 主要会議とその主な議題

8月1日から10月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

### 【理事会】

(9月13日)

#### 審議事項

1. 学校法人大阪医科大学理事委員会規程の制定について
2. 学校法人大阪医科大学役員等の報酬に関する規程の制定について

#### 報告事項

1. 担当理事運営会議報告
2. その他(学事・病院関係事項報告他)

(10月11日)

#### 審議事項

1. 理事の選任について
2. 大阪医科大学大学院学則の一部改正について

#### 報告事項

1. 病院収入の基本的な考え方について
2. 高槻市都市計画審議会委員の委嘱について
3. 担当理事運営会議報告
4. 日本私立医科大学協会理事会報告
5. その他  
学校法人大阪医科大学将来構想(建物)について  
大阪医科大学新講義実習棟新築工事進捗状況について  
学事報告  
看護専門学校長報告

### 【臨時教授会】

(9月7日)

#### 審議事項

1. 人事に関する件
2. 学校法人大阪医科大学セクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する規程(案)について
3. 学生部委員会の教務委員会委員長及び学生生活委員会委員長の委嘱について
4. 広報・入試プロジェクト委員会委員の追加委嘱について

5. 臨床教育教授及び臨床教育助教授の選出に関する件

6. 大学跡地利用委員会(案)について

7. 大阪医科大学附属病院長予定者選考規程検討委員会委員の選出について

8. 大阪医科大学組織機構改革委員会審議経過について

#### 報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. 教育センター長報告
4. 病院長報告
5. 研究機構長報告
6. その他

### 【臨時大学院医学研究科委員会】

(9月7日)

1. 大学院小委員会内規の改定について

2. 高度安全実験室細則(研究機構関連規約)の改正(案)について

3. 海外研修の許可願出について

4. 学外研修の許可願出について

5. 学外研修の延長許可願出について

6. 大学院共同利用実験施設セミナーの実施に関するアンケート結果について

7. 研究機構シンポジウムについて

### 【教授会】

(9月21日)

#### 審議事項

1. 人事に関する件

2. 大阪医科大学組織機構改革委員会審議経過について

3. 大阪医科大学入試実務委員会規程の一部改正について

4. 産婦人科学ユニット担当教授の選考に関する件

5. 教授の退職に関する件

6. 教育教授の退職に関する件

7. 臨床教育助教授の追加選出に関する件

8. 大講座制主任教授連絡会について

#### 報告事項

1. 学長報告

2. 学生部長報告
3. 教育センター長報告
4. 病院長報告
5. 研究機構長報告
6. 倫理委員会報告

**[ 大学院医学研究科委員会 ]**

( 9月21日 )

1. 大学院委員会内規の改定について
2. 大学院委員会委員長の選出について
3. 大学院委員会委員の選出について
4. 平成18年度大学院学生募集要項に関する件

**[ 教授会 ]**

(10月5日)

審議事項

1. 人事に関する件
2. 大阪医科大学教授選考規程の一部改正について
3. 大阪医科大学組織機構改革委員会の各小委員会報告の審議について
4. 平成17年度奨学金（本学・仁泉会）の推薦について
5. 整形外科学ユニット教授選考に関する件
6. 病態検査学ユニット教授選考に関する件
7. 科学研究費補助金申請手順の変更について
8. 鉤奨学基金運営委員会委員の選出について

報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. 教育センター長報告
4. 病院長報告
5. その他

**[ 大学院医学研究科委員会 ]**

(10月5日)

1. 休学願について
2. 学位論文受理に関する件
3. 平成18年度大学院学生募集要項に関する件

**[ 教授会 ]**

(10月19日)

審議事項

1. 人事に関する件
2. 大阪医科大学組織機構改革委員会の各小委員会報告の審議について
3. 整形外科学ユニット教授選考委員会委員の委嘱について
4. 平成18年度入学試験当日の総監督並びに総監督補佐の委嘱について
5. 平成18年度カリキュラム（案）について
6. 4大学臨床実習について
7. 教員の出勤管理について

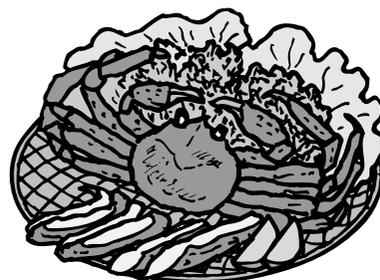
報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. 病院長報告
4. 研究機構長報告
5. その他

**[ 大学院医学研究科委員会 ]**

(10月19日)

1. 専攻課程・専門課程の変更について
2. 大学院入学試験（外国語試験）および学位論文提出のための語学試験における語学（フランス語）の取り扱いについて



## 行事予定 市民公開講座

### 主な行事日程

11月1日から平成18年1月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 11月1日(火) 看護専門学校推薦入学試験願書受付開始(11月7日まで)
- 2日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 10日(木) 合同避難訓練
- 15日(火) 理事会
- 16日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 17日(木) 看護専門学校推薦入学試験
- 19日(土) 市民公開講座
- 24日(木) 連携病院長会総会
- 30日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 12月3日(土) 実験動物慰霊祭
- 10日(土) 院内コンサート  
第23回医学教育ワークショップ  
(~11日)
- 12日(月) 学位論文提出のための語学試験
- 13日(火) 理事会
- 15日(木) 大学院医学研究科入学願書受付開始(1月13日まで)
- 17日(土) 市民公開講座

- 21日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会  
看護専門学校冬期休業
- 24日(土) 第2回入試説明会  
医学部学生冬期休業

平成18年

- 1月4日(水) 年賀交歓会  
医学部一般入学試験願書受付開始(1月31日まで)  
看護専門学校一般入学試験願書受付開始(1月20日まで)
- 10日(火) 医学部センター試験利用入学試験願書受付開始(2月7日まで)  
医学部学生授業再開
- 11日(水) 大講座制主任教授会(未定)
- 13日(金) 学位論文受付締切
- 17日(火) 理事会
- 21日(土) 市民公開講座
- 25日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会(未定)
- 29日(日) 看護専門学校一般入学試験(1月31日まで)

### 平成17年度 市民公開講座

平成17年度市民公開講座が、下記の通り開催されました。

#### 第4回

9月17日(土)午後2時~ 臨床第1講堂

『PET検査について』

講師：放射線科 教授 榎林 勇

『造影剤について』

講師：附属病院薬剤部 穂刈 玲子



榎林 勇 教授

### 救急功労表彰を受賞しました

救急の日（9月9日）に当たり、平成17年度救急医療功労の表彰が行なわれ、本院は大阪府医師会長表彰を受賞しました。

救急医療部を中心に本院が救急医療に取り組んできた成果が認められ、表彰状と記念品の時計を頂きました。



### 7号館病棟が開設しました

7月の外来移転に引き続き、9月23日に7号館病棟が開設し、1号館や2、5、6号館などから病床が移転しました。これで7号館は全てのフロアーがオープンしました。

お彼岸の連休中にもかかわらず23日～25日の3日間で延べ約300名が、患者様とその荷物の移動、機器類の移動、案内表示の変更、面会案内などの移転作業を行ないました。明るくゆったりとした病室や広いデイルームなど7号館への患者様の評判は上々でした。



### 平成17年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記の通りです。

	入院患者数	外来患者数	対前年度増減率（％）	
			入院患者数	外来患者数
H17. 4	23,301 (776.7)	46,873 (2,038.0)	1.63%	- 4.08%
H17. 5	23,370 (753.9)	44,406 (2,114.6)	3.03%	- 0.90%
H17. 6	23,806 (793.5)	47,674 (2,072.8)	- 0.97%	- 3.36%
H17. 7	23,909 (771.3)	45,801 (1,991.3)	- 4.47%	- 4.53%
H17. 8	23,445 (756.3)	47,017 (1,880.7)	- 3.01%	- 3.66%
H17. 9	22,447 (748.2)	45,542 (2,070.1)	- 0.34%	- 4.14%
合 計	140,278 (766.5)	277,313 (2,024.2)	- 0.77%	- 3.52%

（ ）内は、1日平均患者数

・入院稼働日数 183日（前年比 0日）

・外来稼働日数 137日（前年比 0日）

### 第4回千里メディカルラリーにおいて

#### 本学医療チーム堂々7位入賞

さる9月17日（土曜日：午前11時から午後5時）万博記念公園内において、大阪府内の救命救急センターはじめ、南は沖縄、北は山梨から全国20チームが参加して、第4回千里メディカルラリーが行われた。JICA（国際協力機構）チームを含むベテランチームに混じって、本学医療チームは健闘し、堂々7位入賞を果たした。

メディカルラリーとは、医療チーム（医師 看護師 救急救命士 6人が1チーム）が特殊メイクアップを施した偽装患者を診察して、限られた時間内にどれくらい的確に治療することができるかを競うコンテストのことである。傷病者模擬患者を用い、二次救命処置や病院前外傷初期診療に基づいたシナリオを設定し、現地訓練を実施することにより、参加した者の傷病者に対する観察、処置の能力向上を図るとともに、プレホスピタルケア（病院前救護）およびチームワーク（チーム医療）の重要性を広く理解されることを目的としている。名神における小型バスを巻き込んだ多重事故や洞窟内でのガス爆発による事故等6つの設定された状況に対し、各チームはそれぞれ施設の威信をかけて、真剣に競いあった。

（文責：富士原 彰）



## 看護専門学校オープンキャンパスについて

従来の学校側から学校生活や入学試験に関する情報を一方的にお知らせしていたオープンキャンパスを、新校舎の完成に伴って、在校生と教職員が一丸となり、体験学習や在校生との交流を取り入れた「体験型」のオープンキャンパスへと大きく模様替えしました。

「生き方として看護を選ぶ。」をテーマとして、新校舎を存分に活用しているいろいろな看護体験や交流の場を持ちました。

広報活動として、近隣の高等学校や推薦指定校・予備校を訪問しパンフレットを配布したり、ホームページや学校説明会等において情報提供することに努めました。



その甲斐あって、今年の8月の「酷暑」の中、3回の開催で予想をはるかに上回る計194名もの参加者があり、教職員一同うれしい悲鳴を上げました。新校舎と図書館の見学では、学習環境の充実に感激した参加者から「スゴイ! スゴイ!!」の連発。看護体験では保護者同伴で参加していた参加者が互いに車椅子に乗ったり、押したり…。はたまた、恐る恐るBaby人形を抱っこして、沐浴させニンマリする高校生。男性社会人の参加者が妊婦体験をして「女性って大変ですね」と一言…。どの参加者も興味をもって生き生きと体験学習を満喫されていました。



一方、在校生や教員との交流では「入学試験に向けてどのような勉強をされました？」

「入学後の勉強は忙しいですか？楽しいですか？辛いですか？」etc...互いに緊張しながら暖かいふれあいの一時になり、盛況のうちに今年度のオープンキャンパスは終了しました。

参加された多くの方々が受験して下さることを願いつつ...



### 保健管理室からのお知らせ

インフルエンザを予防しましょう！

インフルエンザは単なる“風邪の一種”ではなく、時には致命的となるウィルス感染症で、特に高齢者や乳幼児、基礎疾患を有する患者様では生命にかかわることとなってきます。私たち医療従事者はインフルエンザに感染する可能性が高いとともに、ハイリスク群（患者様）にインフルエンザを伝播する可能性が高いことも十分に認識し、予防に努めましょう。

#### 【予防の基本はワクチン接種】

インフルエンザの予防には流行期前（11月頃）のワクチン接種が有効です。本学では11月9日、10日（学生対象）、11月15日～17日（教職員対象）にインフルエンザワクチン接種を実施致しました。未だワクチン接種を受けておられない方は他の医療機関を受診し、ワクチン接種されることをお奨め致します。

なお、鶏卵アレルギーの既往歴を有する場合は、必ず医師に相談して下さい。

#### 【日常からの健康管理が必要】

体力の低下を防ぐ

低栄養の予防、過労防止、睡眠・休養の確保、生活リズムの維持、適切な水分補給を心がけ、体力の低下を防ぎましょう。

手洗いとうがい

食事や作業の前後、外出後などは十分に手洗いとうがいをしましょう。手拭はペーパータオルや温風乾燥機が望ましく、タオルの共用は避けた方が良いでしょう。

適度な湿度を保つ

インフルエンザウィルスは低温・低湿を好むため、加湿器などで適度な温度、湿度を保つことが効果的です（22 前後の室温、50～70%の湿度を保つことが望ましいとされています）。

マスクの着用

マスクは気道粘膜の乾燥を防ぎ、直接飛沫による感染をある程度防ぐ効果があります。流行時期のごみへの外出時にはマスクを使用しましょう。



#### 【インフルエンザにかかったら、早めに受診しましょう】

罹患が疑われる症状が出現した場合、早めに受診し治療を受けましょう。職場や学校を休むわけにはいかないと受診が遅れる場合が少なくありません。早期の治療は自分を守るだけでなく、他人への感染を防ぐためにも重要です。

#### 3回目B型肝炎ワクチン接種・3回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

下記の要領で第3回目B型肝炎ワクチン接種、3回ワクチン接種後抗体検査を実施致します。対象となられる方には案内を個人通知致しますので、受検して下さい。

#### 【第3回目B型肝炎ワクチン接種】

日時 平成17年12月7日（水）、8日（木）  
15:00～16:00  
場所 第8会議室（研究棟1階）

#### 【3回目ワクチン接種後抗体検査】

日時 平成18年1月19日（木）、20日（金）  
15:00～16:00  
場所 第8会議室（研究棟1階）

健診結果を活用しましょう！

10月18日～28日に平成17年度職員定期健康診断、生活習慣病健康診断を実施致しました。健康診断の目的は「病気の早期発見、早期治療」と「自分の健康、生活習慣を考える」であり、所見の有無に関係なく今回の健診結果を活用して、自分自身の生活習慣を振り返ってみましょう。また定期的に健康診断を受検することは、感染性疾患の早期発見・感染防止といった感染症対策にも重要なことであり、健診受検を含めて“自分の健康を自分で管理する”ことは医療従事者の義務といっても過言ではないかもしれません。

健診結果が「再検査」「要精密検査」であった方は「もう一度検査して確認しましょう」あるいは「もう少し詳しく調べてみましょう」ということで病気と診断されたわけではありません。しかし場合によっては治療が必要な病気が発見されることもありますので、放置せずに必ず再検査・受診をして下さい。また食生活、運動、喫煙、飲酒など生活習慣を見直し改善してみましょう。「異常なし」であった方も、今回の結果に甘んじず「異常なし」を維持できるように健康管理を心がけましょう。

### 健康診断で脂質値が高いといわれたら・・・

定期健康診断の有所見率を検査項目別で見ると、脂質値の有所見率が最も高く、平成14年度は50.2%、平成15年度は67.3%、平成16年度58.9%となっています。高脂血症は特に自覚症状がなく、健診などで中性脂肪値や総コレステロール値の異常を指摘されても放置する場合があります。しかしこれを放置すると動脈硬化を引き起こし、高血圧、さらには心臓病や脳卒中の原因となりますので、健康診断で脂質値が高かった方は注意をしましょう。また女性の場合、閉経前後より脂質値が上昇しますので注意しましょう。

高脂血症を予防するには

動物性脂肪の多い食品を控える

バター、肉の脂身、加工肉、魚・鳥の卵など動物性脂肪のとりすぎはコレステロール値を高めます。

青背の魚を積極的にとる

青背の魚に多く含まれるEPA（エイコサペンタエン酸）にはコレステロールや中性脂肪を減らす働きがあります。

食物繊維の多いものを積極的にとる

食物繊維は余分なコレステロールを排泄します。

大豆製品を取り入れる

大豆の脂肪は血中コレステロールを下げ、ビタミンEやレシチンは善玉コレステロールを増やし、良質のたんぱく質は血圧の上昇を抑えます。

肥満と喫煙は善玉コレステロールを減らすので気をつける

適度な運動で善玉コレステロールを増やし悪玉を減らす

自分のペースで行える有酸素運動が適しています、無理なく気長に続けましょう。

（東京法規出版「健診を受けて実行！」より抜粋）



大阪医科大学俳句会（六・七・八・九・十月）

馬市や馬より重き血統書

塚本務人

秋興や下駄履似合ふ通り土間

同

それぞれに荷を背負つてる夏至になる

今井雄介

人魚姫ひとにはなれず晩夏光

中川一成

三日月がほのかに照らす芒かな

田中豊夫

閻王祭なりたい私にはなれず

吉田孝江

どくだみに五弁ありせばユダの舌

同

湯煙となりゆく野萩花微塵

飯塚久子

庭占むに洩れ灯も欲しい花どくだみ

同

勝ち負けを突き抜けてゆく鬼やんま

美濃 眞

父の日の父が忘れてゆきし杖

同

らぶそくも山とマリア生誕祭

山崎隆司

投句のお誘い

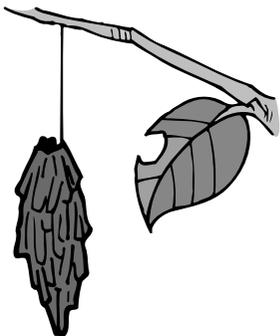
一般の方も投句（何句でも）して下されば、  
当句会で会員の出句と同じように選句します。  
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町 2-7  
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



## 平成17年度医療事故防止の標語決定

安全確保に対する意識向上のための「平成17年度医療事故防止の標語」が、応募数108作の中から病院長また安全管理委員会での厳正な検討の結果、各賞が決定しました。

病院長賞、医療安全対策室長賞はポスター形式で各病棟、外来等に貼付しています。

病院長賞

・ほうれんそう（報連相）で事故防止

（54病棟）



医療安全対策室長賞 ・チーム医療 みんなでつなく Safety

（臨床治験センター）



佳作

- ・忙しい そんな時こそ あせらずに (薬剤部)
- ・声かけは リスク防止の第一歩 (血液浄化センター)
- ・「はずがない」見落とし 見過ごし 先入観 (14病棟)
- ・まあいいや あなたがよくても みな困る! (輸血室)
- ・身につけよう 笑顔 気配り 安全確認 (救急外来)

## 新旧学長歡送迎会について



9月16日（金）午後6時半から、大阪中之島・リーガロイヤルホテル、ロイヤルホールにおいて植木 實学長ご夫妻ならびに島田眞久前学長ご夫妻をお迎えし、「新旧学長歡送迎会」が開催されました。

当日は来賓及び学内外の関係者340余名が出席し、和やかな雰囲気の中盛会のうちに会を終了いたしました。

### 個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。  
これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。  
なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。  
学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総務部 学報編集担当係 電話 072 - 684 - 6218

大阪医科大学学報 第66号

発行年月 平成17年11月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>